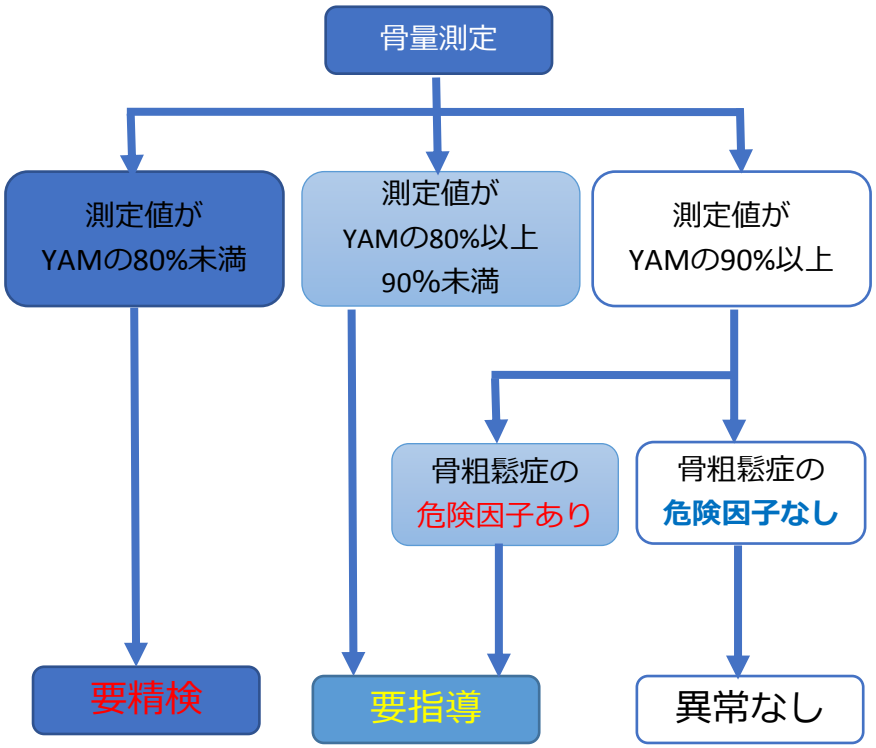
参考資料３

骨粗しょう症検診における判定基準と危険因子

（骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版より引用）



骨粗鬆症の危険因子

（除去できない危険因子）

加齢

性（女性）

人種

家族歴

遅い初潮

早期閉経

過去の骨折

（除去できる危険因子）

カルシウム不足

ビタミンＤ不足

ビタミンＫ不足

リンの過剰摂取

食塩の過剰摂取

極端な食事制限

（ダイエット）

運動不足

日照不足

喫煙

過度の飲酒

ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドライン（2014改訂版より）

経口ステロイドを３カ月以上使用中あるいは使用予定

一般的指導

危険因子の評価

（既存骨折、年齢、ステロイド投与量、骨密度）

ｓｃｏｒｅ≧３

ｓｃｏｒｅ＜３

薬物療法

第１選択薬：アレンドロネート

リセドロネート

代替え治療薬：

遺伝子組み換えテリパラチド

イバンドロネート

アルファカルシドール

カルシトリオール

経過観察

スコアを用いた定期的な

骨折リスク評価

危険因子		スコア
既存骨折	なし	0
	あり	7
年齢	50未満	0
	50～64未満	2
	65以上	4
ステロイド投与量（PSL換算mg/日）	5未満	0
	5～7.5未満	1
	7.5以上	4
骨密度（%YAM）	80以上	0
	70～80未満	2
	70未満	4